

## 工学研究科とシアクアラ大学が ダブルディグリーの調印を行いました

都市安全研究センター  
教授 大石 哲

神戸大学工学研究科とシアクアラ大学は、修士課程のダブルディグリープログラムを立ち上げることを決定いたしました。これにより学生は1年を神戸で、1年をバンダアチェで学習・研究することにより神戸大学とシアクアラ大学の両方から修士課程の学位を得ることができます。

シアクアラ大学は、インドネシアのアチェ州に位置する1961年に創設された国立の総合大学で、約30,000名の学生が在籍し、アチェ州では最大規模の大学です。シアクアラ大学の理念の一つは、地域・国内における人材育成であり、大学のレベルにおいてはジャワ島以外のインドネシア地域において最も高いレベルを有する大学のひとつです。神戸大学とは2005年から大学間学術交流協定を締結しています。アチェ州は2004年のスマトラ沖地震・津波の被災地であり、神戸と同様に震災を経験した地域であることから、学術交流協定締結以来、研究者の受入れや災害復興に関するワークショップの開催などの支援活動を中心に、研究者間の活発な交流が行われてきました。

今回のダブルディグリープログラムによって、神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻とシアクアラ大学大学院災害科学プログラムとの間で学生の交流が活性化します。

神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻には、気象レーダーを用いた豪雨の探知および予測を研究する大石教授、将来気候の変化による洪水災害の変化の研究を行う小林准教授、オンサイトビジュアルリゼーションによって災害の予兆を現場で知らせる研究を行う芥川教授とともに、理化学研究所計算科学研究センターと共同してスーパーコンピュータを減災研究に活用する、飯塚教授、竹山准教授、橘講師（地盤災害）、梶川教授、山浦助教（気候学）、井料教授（交通工学）がいて、最先端の防災・減災に関する工学的なアプローチについて学ぶことができます。一方、シアクアラ大学では災害マネジメント、災害リスク経験のための知識マネジメント、災害リスクコミュニケーションなど文理融合的な研究が行われています。学生はこれらを集中的に学ぶことで次世代の防災・減災について自ら考えて学ぶ素養を身につけることができます。

今回のダブルディグリープログラムは神戸大学の理系・医学系の研究科では初めての試みであり、お互いが相互補完的な立場であるため、学生の交流だけではなく、教員間の研究交流の活性化も期待できると考えています。

シアクアラ大学から訪問がありました（2018年12月3日）

[http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2018\\_12\\_03\\_02.html](http://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2018_12_03_02.html)

### 【問合せ先】

都市安全研究センター 教授 大石 哲

E-mail : tetsu@phoenix.kobe-u.ac.jp

電話 : 078-803-6333（工学研究科総務グループ）